

(3) 乳児死亡及び新生児死亡

乳児死亡数は94人で、前年より24人減少した。乳児死亡率は出生千人に対し1.8で、前年より0.4ポイント低下した。

乳児死亡のうち新生児死亡数は、36人で前年より16人減少した。新生児死亡率は出生千人に対し0.7で、前年より0.3ポイント低下した。

全国は、乳児死亡率が前年より0.1ポイント低下し1.9、新生児死亡率が前年と同率の0.9であった。(表-21、図-16、図-17)

表-21 乳児死亡及び新生児死亡の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	
乳児	数	埼玉県	1 523	1 348	1 232	1 015	558	369	280
		全国	49 293	33 742	25 412	19 103	11 841	7 899	5 616
	率	埼玉県	35.1	20.2	13.5	10.6	7.4	5.5	4.4
		全国	30.7	18.5	13.1	10.0	7.5	5.5	4.6
新生児	数	埼玉県	955	931	869	673	369	228	168
		全国	27 362	21 260	16 742	12 912	7 796	4 910	3 179
	率	埼玉県	22.0	14.0	9.5	7.0	4.9	3.4	2.7
		全国	17.0	11.7	8.7	6.8	4.9	3.4	2.6

		7	12	17	22	27	28	29	
乳児	数	埼玉県	257	210	137	133	111	118	94
		全国	5 054	3 830	2 958	2 450	1 916	1 928	1 761
	率	埼玉県	3.8	3.2	2.3	2.2	2.0	2.2	1.8
		全国	4.3	3.2	2.8	2.3	1.9	2.0	1.9
新生児	数	埼玉県	124	105	61	62	48	52	36
		全国	2 615	2 106	1 510	1 167	902	874	832
	率	埼玉県	1.8	1.6	1.0	1.0	0.9	1.0	0.7
		全国	2.2	1.8	1.4	1.1	0.9	0.9	0.9

注：率は出生千対である。

図-16 乳児死亡率の年次推移
(埼玉県・全国)

乳児死亡率(出生千対)

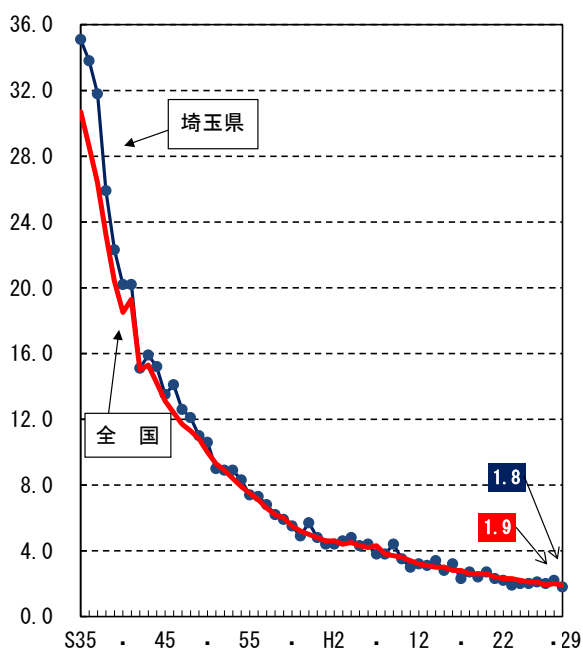
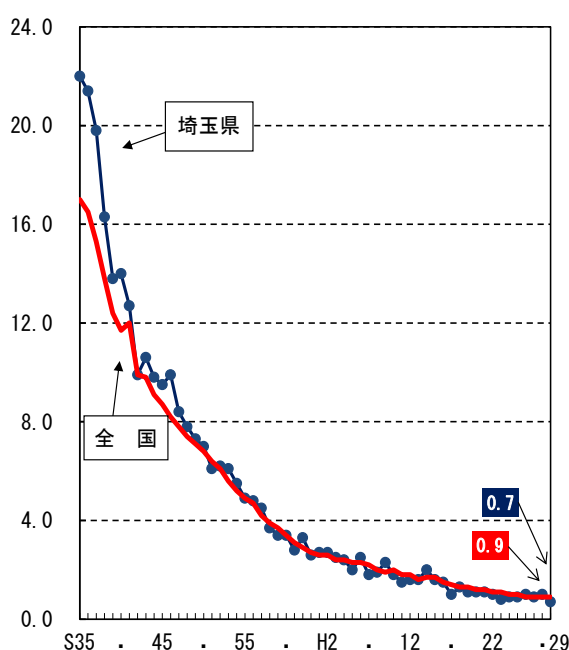


図-17 新生児死亡率の年次推移
(埼玉県・全国)

新生児死亡率(出生千対)



(4) 自然増減

自然増減数（出生数から死亡数を減じたもの）は△12,695人で、前年の△9,019人より3,676人拡大し、平成24年に戦後初めて増加局面から減少局面に転じて以降、現在もこの傾向が続いている。

年次推移をみると、第2次ベビーブーム期の昭和46～49年には75,000人を超えて増加していたが、その後急激に減少していき、平成15年に20,000人を、平成20年に10,000人を下回るようになった。

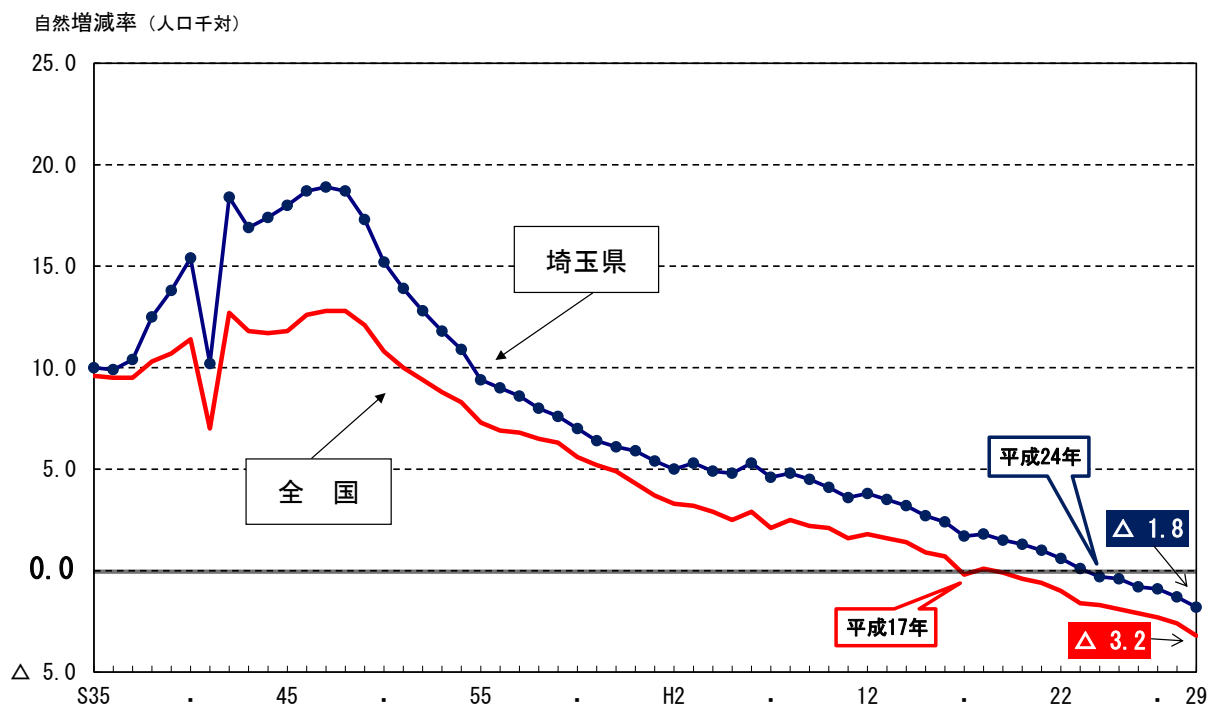
自然増減率は人口千人に対し△1.8で、全国に比べて減少幅は1.4ポイント小さかった。（表-22、図-18）

表-22 自然増減数及び自然増減率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2
数	埼玉県	24 332	46 468	69 277	73 345	50 961	40 843	32 077
	全国	899 442	1 123 259	1 221 277	1 199 165	854 088	679 294	401 280
率	埼玉県	10.0	15.4	18.0	15.2	9.4	7.0	5.0
	全国	9.6	11.4	11.8	10.8	7.3	5.6	3.3
		7	12	17	22	27	28	29
数	埼玉県	30 951	25 890	11 636	3 950	△ 6 488	△ 9 019	△ 12 695
	全国	264 925	228 894	△ 21 266	△ 125 708	△ 284 767	△ 330 770	△ 394 332
率	埼玉県	4.6	3.8	1.7	0.6	△ 0.9	△ 1.3	△ 1.8
	全国	2.1	1.8	△ 0.2	△ 1.0	△ 2.3	△ 2.6	△ 3.2

注：率は人口千対である。

図-18 自然増減率の年次推移（埼玉県・全国）



市町村別にみると、高率順では、和光市（3.9）、戸田市（3.7）、朝霞市（2.6）の順である。

また、低率順では、小鹿野町（△13.1）、東秩父村（△13.0）、長瀨町（△12.3）の順である。

自然増減数・率がマイナスの市町村は、前年より3市（三郷市、富士見市、新座市）増加して63市町村中53市町村であった。（表－23、図－19）

表－23 市町村別にみた自然増減率（高率順）

埼玉県								
順位	市町村	自然増減率	順位	市町村	自然増減率	順位	市町村	自然増減率
1	和光市	3.9	22	宮代町	△ 2.1	43	上里町	△ 5.3
2	戸田市	3.7	23	入間市	△ 2.2	44	本庄市	△ 5.7
3	朝霞市	2.6	24	東松山市	△ 2.5	45	横瀬町	△ 5.9
4	滑川町	2.0	25	鴻巣市	△ 2.5	46	幸手市	△ 5.9
5	志木市	1.8	26	蕨市	△ 2.6	47	寄居町	△ 6.6
6	吉川市	1.4	27	桶川市	△ 2.7	48	毛呂山町	△ 6.8
7	八潮市	0.8	28	蓮田市	△ 3.1	49	行田市	△ 6.9
8	越谷市	0.1	29	久喜市	△ 3.4	50	嵐山町	△ 7.3
9	伊奈町	0.1	30	坂戸市	△ 3.4	51	川島町	△ 8.3
10	さいたま市	0.1	31	春日部市	△ 3.5	52	秩父市	△ 8.4
11	三郷市	△ 0.0	32	狭山市	△ 3.8	53	吉見町	△ 8.4
12	富士見市	△ 0.4	33	深谷市	△ 3.9	54	越生町	△ 8.7
13	新座市	△ 0.8	34	北本市	△ 4.0	55	美里町	△ 9.5
14	川口市	△ 0.9	35	三芳町	△ 4.2	56	神川町	△ 9.6
15	鶴ヶ島市	△ 1.0	36	加須市	△ 4.2	57	鳩山町	△ 9.7
16	川越市	△ 1.1	37	杉戸町	△ 4.3	58	皆野町	△ 10.3
17	草加市	△ 1.2	38	松伏町	△ 4.6	59	ときがわ町	△ 10.6
18	ふじみ野市	△ 1.3	39	熊谷市	△ 4.8	60	小川町	△ 11.0
19	白岡市	△ 1.5	40	日高市	△ 4.9	61	長瀨町	△ 12.3
20	所沢市	△ 1.7	41	羽生市	△ 5.1	62	東秩父村	△ 13.0
21	上尾市	△ 1.8	42	飯能市	△ 5.2	63	小鹿野町	△ 13.1

注1：率は人口千対である。

注2：順位の算出には、小数点第2位以下を考慮している。

(5) 死産

死産数は1,213胎で、前年より32胎増加した。死産の内訳をみると、自然死産は前年より23胎増加し598胎、人工死産は前年より9胎増加し615胎であった。

死産率は出産千人（胎）に対し22.3で、前年より1.1ポイント上昇した。全国は0.1ポイント上昇し21.1であった。（表-24、図-20、図-21）

表-24 死産数及び死産率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	25	27	28	29
死 産 率	埼玉県	3 794	4 237	4 277	3 795	2 792	2 630	2 324	1 944	1 907	1 637	1 375	1 401	1 350	1 181	1 213
	全国	179 281	161 617	135 095	101 862	77 446	69 009	53 892	39 403	38 393	31 818	26 560	24 102	22 617	20 934	20 358
	埼玉県	80.4	59.8	44.8	38.0	35.8	37.6	35.4	27.9	27.9	26.7	22.6	23.8	23.5	21.2	22.3
	全国	100.4	81.4	65.3	50.8	46.8	46.0	42.3	32.1	31.2	29.1	24.2	22.9	22.0	21.0	21.1
(自然)	数	2 491	3 077	3 307	2 976	2 021	1 521	1 226	1 057	941	780	690	697	670	575	598
	率	52.8	43.4	34.7	29.8	25.9	21.8	18.7	15.2	13.8	12.7	11.3	11.8	11.7	10.3	11.0
	埼玉県	52.3	47.6	40.6	33.8	28.8	22.1	18.3	14.9	13.2	12.3	11.2	10.4	10.6	10.1	10.1
	全国	52.3	47.6	40.6	33.8	28.8	22.1	18.3	14.9	13.2	12.3	11.2	10.4	10.6	10.1	10.1
(人工)	数	1 303	1 160	970	819	771	1 109	1 098	887	966	857	685	704	680	606	615
	率	27.6	16.4	10.2	8.2	9.9	15.9	16.7	12.7	14.1	14.0	11.3	12.0	11.8	10.9	11.3
	埼玉県	27.6	16.4	10.2	8.2	9.9	15.9	16.7	12.7	14.1	14.0	11.3	12.0	11.8	10.9	11.3
	全国	48.1	33.8	24.7	17.1	18.0	23.9	23.9	17.2	18.1	16.7	13.0	12.5	11.4	10.9	11.0

注：率は出産（出生＋死産）千対である。

図-20 死産率の年次推移
（埼玉県・全国）

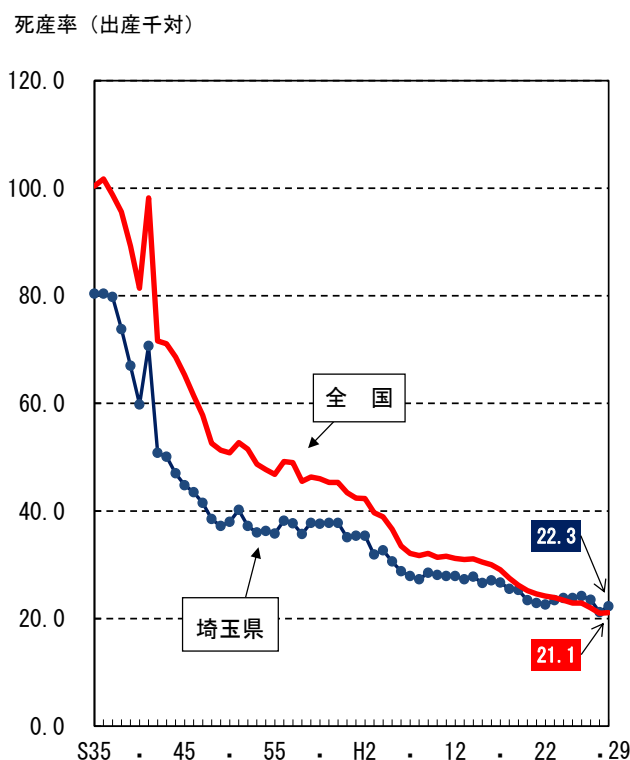
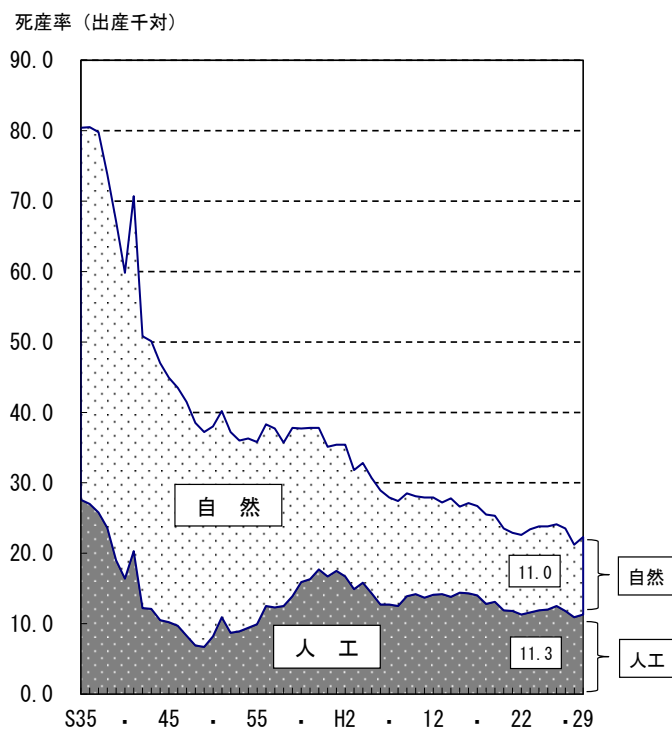


図-21 死産率（自然・人工）の
年次推移（埼玉県）



(6) 周産期死亡

周産期死亡数は178人（胎）で、前年より7人（胎）減少した。

周産期死亡率は出産千人（胎）に対し3.3で、前年より0.1ポイント低下し、全国（3.5）を0.2ポイント下回った。年次推移をみると、長期的に低下傾向にある。（表-25、図-22）

なお、平成7年の上昇は、周産期死亡の定義が変わり、後期死産が「妊娠満28週以後」から「妊娠満22週以後」に改められたことに原因があるものと考えられる。

表-25 周産期死亡数及び周産期死亡率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	25	27	28	29
周産期死亡数	埼玉県	1 892	1 956	1 889	1 546	899	555	401	476	397	281	252	216	208	185	178
	全国	66 552	54 094	41 917	30 513	18 385	11 470	7 001	8 412	6 881	5 149	4 515	3 862	3 728	3 516	3 308
周産期死亡率	埼玉県	43.6	29.4	20.7	16.1	12.0	8.3	6.3	7.0	6.0	4.7	4.2	3.7	3.7	3.4	3.3
	全国	41.4	30.1	21.7	16.0	11.7	8.0	5.7	7.0	5.8	4.8	4.2	3.7	3.7	3.6	3.5
後期死産数	埼玉県	1 287	1 306	1 213	1 014	603	380	275	385	319	242	205	179	175	145	154
	全国	49 512	39 955	29 107	20 268	12 231	7 733	4 664	6 580	5 362	4 058	3 637	3 111	3 063	2 840	2 683
後期死産率	埼玉県	29.6	19.6	13.3	10.6	8.0	5.6	4.3	5.7	4.8	4.0	3.4	3.1	3.1	2.7	2.9
	全国	30.8	21.9	15.0	10.7	7.8	5.4	3.8	5.5	4.5	3.8	3.4	3.0	3.0	2.9	2.8
早期新生児死亡数	埼玉県	605	650	676	532	296	175	126	91	78	39	47	37	33	40	24
	全国	17 040	14 949	12 810	10 245	6 154	3 737	2 337	1 832	1 519	1 091	878	752	665	676	625
早期新生児死亡率	埼玉県	13.9	9.8	7.4	5.5	3.9	2.6	2.0	1.3	1.2	0.7	0.8	0.6	0.6	0.7	0.5
	全国	10.6	8.2	6.6	5.4	3.9	2.6	1.9	1.5	1.3	1.0	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7

注1：周産期死亡率・後期死産率は出産（出生＋後期死産）千対である。

注2：早期新生児死亡率は出生千対である。

注3：後期死産とは、妊娠満22週以後の死産である。

図-22 周産期死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

周産期死亡率（出産千対）

